

野焼きを行う理由

阿蘇では有名な野焼きですが、実施する理由として大きく次の5つが挙げられます。

1 草原の維持・生態系の保護

野焼きは、草原を守るために重要です。放置すると森林化が進み、草原特有の植物や生き物が失われてしまいます。定期的に焼くことで、木の芽や外来種を抑え、在来の草花が育ちやすい環境を保ちます。

2 新しい草の成長を促進

焼かれた後の土地は養分が土に戻り、春になると栄養豊富な新芽が生えます。家畜の飼料としても良質で、畜産にも役立ちます。

3 病害虫の抑制

枯れ草や害虫の卵などを焼き払うことで、病気や害虫の発生を減らす効果があります。

4 火災予防（燃料の除去）

一度まとめて焼くことで、可燃物（枯れ草など）を減らし、大規模な山火事のリスクを下げる目的もあります。

5 伝統行事・文化的側面

地域の人々が協力して行うことで、

文化の継承やコミュニティの結びつきも強まるのが期待されます。



少しずつ延焼する草原

野焼きを実施する課題

こうした野焼きを行う中で、草刈り、輪地切りなどの作業の積み重ねが大切です。しかし、現在はその担い手の多くが高齢者となり、作業の負担が大きくなっています。現在の美しい景観を守っていくためには次の担い手を育てていくことが重要となっています。また、火付け役は火を取り扱う作業となることから、安全確保のために経験や判断力が大きく影響します。そのため、地域の景観維持に欠かせない一方で、事故が起きれば大きな被害につながることから、安全に野焼きを実施するためには、地域全体で支える体制が必要となってきます。

野焼きを継続するために

野焼きを継続して実施していくために、村では南阿蘇村野焼き人材認定制度を実施しています。

本事業では村において草原維持が困難になりつつある中で、牧野組合または地区などの一員として草原維持作業を担う野焼きプロ人材の育成を目的としています。対象者は野焼き実施主体地区外の人で、輪地切りをはじめとした火消し火付け、現場指示も行える人材育成を目指しています。

令和8年2月には、3回目となる研修会が開催されました。午前の実地研修は計7人が参加され、中郷竹崎牧野をお借りし、実際の火付けを実施しました。参加者は真剣な表情で受講していました。また既に認定を受けている4人は今後も対象牧野において現地研修を継続し、草原維持活動に携わっていただきます。加えて参加者の心理的安全性を担保するために、万が一事故が発生した場合の保険・補償制度の見直しなども実施する予定です。

ボランティアについて

地域の高齢化や人口減少に伴って、地元だけでの草原の維持活動が難しくなってきた中で、野焼き支援ボランティアは、不可欠な存在となっています。

そのために、公益財団法人阿蘇グリーンストックでは、九州を中心に、全国からボランティアを募り、初心者研修会を義務付け、人手不足や高齢化によって、野焼きや輪地切りの持続が困難な牧野へ野焼き支援や輪地切り（防火帯づくり）活動に派遣しています。現在は約1,500人の会員が登録しており、さまざまな牧野にて活動の支援を行っています。



阿蘇グリーンストック HP



中郷竹崎牧野での実地研修



輪地切りを行うボランティア

令和7年度 南阿蘇村原野火入れ実施一覧

実施箇所	実施面積 (ha)
崩土牧野(両併一区)	6.1
中郷・竹崎原野組合	14.3
白川牧野(白川区)	98.9
吉田牧野(吉田一・二・三区)	55.0
下市牧野(一関一区)	21.5
下磧牧野(一関二区)	76.4
中松牧野(中松一区)	9.7
中松三区(火の山トンネル)	24.7
第1駐在区	14.4
第2駐在区	5.0
第3駐在区	62.7
第4駐在区	17.9
第5駐在区	118.8
第6駐在区	23.1
摺尾公民館	5.0
柿野山田牧野組合	28.1
第8駐在区	66.8
池ノ窪牧野(東下田区)	21.6
栃木原原野(喜多区)	4.3
栃木原原野(川後田区)	7.8
栃木原原野(乙ヶ瀬区)	3.9
沢津野牧野(沢津野区)	49.2
長野牧野農業協同組合	71.0
長野牧野農業協同組合	16.0
東海大学	20.0
下野原野組合	5.3
下野新山組合	20.0
瀬田立野牧野農業協同組合	127.0
下野牧野組合(共有地)	6.8
総面積	1001.3

令和7年度
野焼きの完了について

本年も皆様のご協力のおかげで、村内29カ所において野焼きを完了することができました。村における野焼きの実施箇所、面積について左図のとおりご紹介いたします。

野焼きは景観維持をはじめ、水源涵養や炭素固定、生物多様性など多面的な役割を担っています。村のこの貴重な草原資源を後世まで守っていくためにも皆さんの引き続きのご協力をお願いいたします。

環境保全の意識を持つ

野焼きを終えた漆黒の大地からは、やがて鮮やかな緑の芽が吹き出します。それは、南阿蘇の自然とコミュニティが再び力強く歩み始めた証でもありません。村は「水の生まれる郷」と言われるほど水源が多いですが、その水源を支えているのは先人の人たちが受け継いできた草原の力です。その清らかな水を育んでいるのは、先人たちが幾世代にもわたって守り続けてきた広大な草原です。草原が維持されることで土壌の保水力が保たれ、私たちの命の水

へと繋がります。

年に1回の野焼きだけで満足せず、日頃から、阿蘇に住む私たち自身が環境保全の意識を持ち、草原や山、水などの限りある資源をより大切にしていきたいませんか。

村はこれからも、村民の皆さんと共に、この美しい資源と貴重な文化を次世代へと引き継ぐための挑戦を続けていきます。村民の皆さんにもご協力をお願いいたします。



他地域での野焼き